

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	川崎西部地域療育センター児童発達支援事業所		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 13日	～	令和7年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	36
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 13日	～	令和6年 11月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	川崎西部地域療育センター内に事業所があることで、保護者プログラムへの他職種の参加が可能であり、専門性の高い幅広い支援の提供が可能です。	子ども発達・支援センターアエルや児童発達支援センターで行っている保護者支援プログラムの内容の検討を行いながら、実施しています。	保護者アンケートから保護者支援プログラムの分析を行いより効果的な支援内容の提供を検討していきます。
2	初期支援グループとして成長・発達の過程で起こりうるあらゆることについていつでも相談できる体制づくりを行っています。また、ご相談内容によっては診療・訓練へつなげていきます。	相談に対して、電話での相談対応を行っていることや、ご希望があればいつでも面談ができることを繰り返しご案内しています。 診療課への相談に関しては仲介を行いながら、適切な支援が受けられるようにしています。	職員が子どもの発達状況や特性についての知識の向上、相談援助技術の向上のための研修を充実していきます。
3	家族のご希望に沿って、保育所や幼稚園などの併行利用先との子どもの状態や支援内容の共有を電話や実際に来所いただいで行っています。	併行利用先の環境を理解した上で、事業所で行っている発達支援の内容をお伝えしています。また、併行利用先との情報共有は積極的に行っています。	職員が保育所、幼稚園、小学校、児童発達支援事業所に訪問しやすい職員体制や支援プログラムを検討しています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親子で参加するため、活動ごとに分かれたスペースも場所によっては密集し、子どもの動線の確保が難しいことがあります。	保育室自体が狭い構造になっています。また、やることと物が1対1対応になっており、パーティションで区切られているため、親子で参加するにはさらに狭く感じると考えます。	・人数の制限や移動ルートなどを具体的にわかりやすく案内していき、スムーズな動線の確保を考えていきます。 ・狭さの中でできる活動を考え、その中で子どもの成長が確保できるよう工夫していきます。
2	職員の人材育成に係る時間が不足していると考えます。他職種に勉強会依頼も行ってはいますが、経験年数に合わせた内容にはなっていないことが多いです。	日々のミーティングで、障害の特性、対応方法などを考察し職員間でアドバイスをする時間を設けていますが、基礎的な研修の実施が難しいです。日々の発達支援業務や記録、クラス準備に時間がかかる点が大きな原因と考えます。	・全体的に日々の業務の見直しを考えています。 ・研修への参加が可能となるよう、運営内容、人の配置について検討していきます。
3	父母会活動等は行っていません。保護者同士の懇談会の時間も少なくなっています。	地域療育センターの早期発達支援クラスとして、子どもの成長・発達にご不安やご心配をされているご家族の方に必要な情報をお伝えすることを目的に保護者支援プログラムを設定しています。発達支援提供期間中に、父母会活動の設定をすることは難しいです。	保護者勉強会の時間配分を検討し、保護者からの発言が活かされるような内容を考えていきます。